

<全体分析>

試験時間

75分

解答形式

記述・論述・描図・選択・マーク

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

設問数はやや減少し、難易度も昨年から大きく下がったため、全体的に取り組みやすくなった。

出題の特徴や昨年との変更点

例年と同様に〔3〕では独立した内容の問題A・Bが出題された。

その他トピックス

特に無し。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔1〕	問形式 (記述)	力学 (糸でつながれた2物体の運動)	物理	II以降は、糸が張るごとに速度が交換されることを利用して解くとよい。	標準
〔2〕	問形式・ 空所補充 (記述・選択)	電磁気 (電磁誘導)	物理	誘導起電力が生じる導体棒を含む直流回路の問題である。 導体棒に生じる起電力とコイルに生じる起電力の正負に注意が必要である。	標準
〔3〕	問形式・ 空所補充 (記述)	A. 熱 (気体の状態変化) B. 原子 (核反応・中性子の減速)	物理	A. 2つの容器に入れられた気体の問題である。 断熱変化の計算を正しくおこなうこと。 B. 原子核反応と、原子核反応を起こすために中性子を減速させる問題である。問10の計算は同質量であることを利用して手際よく進めること。	A. 標準 B. 標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書で扱われている基本事項を確実に理解し、物理的な内容を正確に理解した上で、発展的な問題演習に取り組む必要がある。

題意のとらえにくい設問では、問題文の流れを注意深く追っていくことが要求されるので、読解力を養う練習も欠かせない。